



校長室の窓

令和7年11月25日
学校だより第8号より

先先日の「こだまステージ発表会」では、子供たちが堂々と舞台に立ち、これまでの練習の成果を存分に発揮しました。発表を終えた子供たちの教室からは、「今日は一番できた!」「やりきったよ!」という満足そうな声が聞こえ、子供たちが達成感を味わっていることが感じられました。

発表の出来ばえも大切ですが、最も価値があるのは、これまでの取組の中で子供たちが「どうすればもっとよくなるか」を自分たちで考え、仲間と共に改善していった過程です。発表の力が伸びただけでなく、協力する力や粘り強く取り組む姿勢も育ちました。

当日は、児童数の何倍もの地域の皆様にご来場いただきました。体育館が温かなまなざしと拍手に包まれ、子供たちの表情は総練習のときとはまるで別人のように、生き生きとしていました。緊張よりも見てもらえる喜びが大きく、子供たちは持てる力を120%発揮し、さらに成長することができました。

来場された方々からは、「子供たちの生き生きとした姿が見られてよかった。」「先生方の指導とアイデアに感動した。」「学校ってすごい。可能性を感じた。」などの嬉しい声をたくさんいただきました。地域の皆様と一緒に子供たちの成長を喜び合える、この温かい関係こそ月立小学校の宝です。

本校の教育スローガンは「子供を真ん中に置いた教育活動」、学校教育目標は「ふるさとに誇りをもち、夢と希望に満ちた、心豊かでたくましい児童の育成」です。当日の体育館には、まさにこの姿があふれていました。地域の真ん中で、地域の人とともに学び、表現し、成長する子供たち。そして、地域が大好きになる子供たち。

今回の発表会に向けては、地域の方々が衣装や道具の準備、そして専門的な指導までお力添えくださいました。その支援があったからこそ、子供たちは自信をもって舞台に立つことができました。

これからも引き続き、地域・家庭・学校が一体となった「子供を真ん中に置いた教育活動」を進めてまいりたいと考えます。今後とも、変わらぬ御支援と御協力を賜りますようお願い申し上げます。